出雲市 犬多頭飼育崩壊

一斉不妊手術 実施報告書

2020年度

主　催：公益財団法人どうぶつ基金

申請者：島根県出雲保健所

会　場：出雲保健所動物愛護棟

　　島根県出雲市塩治町223-1

期　間：2020年11月9日～11月13日

公益財団法人
どうぶつ基金
www.doubutukikin.or.jp　どうぶつ基金　検索
659-0004 兵庫県芦屋市奥池南町71-7　0797-57-1215　info@doubutukikin.or.jp

支援決定までの経緯

doubutukikin

史上最大級の犬多頭飼育崩壊

10月13日、出雲保健所より管轄内で発生した一般家庭での140頭超の犬の多頭飼育崩壊について、救済支援を依頼するメールが届いた。一般家庭で犬140頭を超える多頭飼育崩壊は類を見ない事態であり、現地視察が必要と判断。10月19日に出雲市を訪問。

以前より当案件に関わっている地元ボランティア団体とともに飼い主宅を視察し、この時点で犬の頭数は164頭と確認。しかし、この後も頭数の情報は二転三転し、最終的には以下頭数と特定した。

当初の頭数：182頭

11月9日時点

飼い主宅：161頭

団体へ譲渡：20頭

死亡：1頭

※団体へ譲渡された20頭の犬の内訳
妊娠犬7頭、去勢済2頭、仔犬11頭

時系列

doubutukikin

10/13	• 出雲保健所より一般家庭での140頭超の犬の多頭飼育崩壊について、救済支援を依頼するメールが届く
10/19	• どうぶつ基金スタッフ2名現地視察 • 出雲保健所で職員、現地愛護団体と打ち合わせ
	• 出雲保健所からの申請書受理
	• PRタイムスで拡散、支援物資の呼びかけ
11/8	• 現地の犬の確認 • 別の1棟にも犬が飼育されていることが判明 • 糞が1m以上の山積みになっておりそこで飼い主は寝ていることを確認
11/9	• 藤田獣医、ネグレクトを確認 • 犬の移動　・体重測定 • 手術会場の設営
11/10	• 手術スタート
11/12	• 県からの要請に応じて、どうぶつ基金から犬達の衰弱を示す診断結果を提出
11/13	• 獣医による最終術後の健康確認後解散 • 県知事は定例記者会見でこれまでの回答を覆して**本件が虐待に相当する**と回答 • 飼い主に戻す予定だった犬全頭を出雲保健所に留め置くことを決定
11/20	• 近隣住民、出雲保健所、地元4団体、との話し合いにリモートでどうぶつ基金理事長が参加
11/29	• 出雲保健所　譲渡会開催
12/1	• 出雲保健所で保護されていた全頭が行き先が決定
	出雲保健所から報告書を受理

支援決定までの経緯

doubutukikin

現場の状況

敷地内には2棟の建物があり、うち1棟の8畳2間の平屋に164頭の犬がひしめきあっていた。床はもちろん、ベッド、台所、棚、庭や縁の下など、まるで満員電車のような状態である。

飼い主によって糞尿は適切に掃除されており、餌も十分に行き届いている、病気やケガをした犬には治療も受けさせているとの話だったが、実情は異なっていた。

犬の多くはあばら骨が浮きでるほど痩せており、ひどいケガをしているが治療を受けた形跡がない犬、あきらかに皮膚病と分かる犬などがおり、弱い子は他の犬に攻撃されるため、ベッドの下などに身を隠して出てくることができない。床には糞尿が重なり、庭の地面は糞尿の泥状態。痩せた犬が生きるために他の犬の排泄物を食べるという状態で、**明らかにネグレクト＝虐待飼育**と言わざるを得ない状況だった。

腰の部分に血が滲み、皮膚がむき出しになった大きな傷が確認できる。

現場の状況

また、犬たちは主に食糞によって感染する寄生虫によって、ジアルジア症とコクシジウム症にかかっていることが判明。劣悪な飼育環境で十分な栄養を摂ることができず、過密飼育による多大なストレスがかかっている現場の犬にとっては、時に命にかかわる事態である。

別の犬の糞を食べて飢えをしのぐ痩せた犬。

後日、別の1棟にも何頭かの犬が飼育されていることが判明。この犬たちは別棟に行くとかみ殺されてしまうため隔離しているという話であった。

どうぶつ基金は、これまで数多くの多頭飼育崩壊現場に関わってきたが、一般家庭における犬の多頭飼育崩壊では、間違いなく史上最大かつ最悪のケースである。

支援決定までの経緯

doubutukikin

支援の必要性について

この現場では30年もの間、ネグレクト（虐待飼育）が続いており、鳴き声や糞尿臭で日常生活に多大な被害を被ってきた近隣住民から島根県行政へ苦情が上がっていたが、玄関先での指導にとどまり長期間放置されてきた。
2020年7月に入り、動物愛護法の改正と近隣住民約80人の署名をうけ、ようやく重い腰を上げた保健所と警察による立ち入り調査が行われたものの、上記のような飼育環境を確認してなお、「虐待はなく、緊急的な措置が必要な状況でもない」と判断されていた。

当事者が自力で解決できる段階はとうに過ぎており、もはや一刻の猶予もない状況であった。繁殖を止めるための全頭一斉不妊手術、これが、過酷な環境で今を生きる犬たちの命を守る唯一の手段であると判断し支援を決定。不妊手術とあわせて、寄生虫感染への対応、ケガや病気などに対する獣医療の提供などを行うこととした。

あばら骨が浮きでるほど痩せている。

スケジュール doubutukikin

日付	時間	
11/9	9：00 10：00～ 13：00～ 16：00～	集合、ミーティング 犬の移動開始（飼い主宅→出雲保健所） 犬のお世話、寄生虫駆除のため投薬スタート 体重測定・健康状態のチェックなど 手術室レイアウト確認、薬品準備など
11/10 ～ 11/12	9：00 9：30～ 12：00 13：00～ 16：00	集合、ミーティング（持ち場の確認など） 手術開始 昼休憩 手術開始 手術終了 後片付け、犬のお世話など
11/13 (予備日)	午前 午後	犬の健康状態のチェックなど どうぶつ基金スタッフ帰路

人員

日付	行政（獣医含む）	ボランティア	獣医
11月9日	5	16	1
11月10日	12	12	4
11月11日	13	12	4
11月12日	10	10	4
11月13日	11	6	2
延べ	52	56	15

ボランティアとその役割

doubutukikin

ボランティア数　16人（最大時）

犬を1頭ずつケージに入れ、名前や年齢、性別などを記入した識別票を付けていきます。

行政の公用車やボランティアが手配した車両で、手術会場となる出雲保健所へ犬を運搬します。

ボランティアとその役割

doubutukikin

獣医師によるチェックや体重測定など個体管理のサポートをしてもらいます。

手術前に必要な毛刈り、爪切りなどの準備もお手伝いいただきました。また、食事や投薬など、犬のお世話全般をお手伝いいただきました。

手 術 数

doubutukikin

手術数

	オス	メス	未手術	計
11月10日	27	22	1	50
11月11日	30	21	5	56
11月12日	22	16	1	39

【搬入数】161頭

【手術対象】 141頭（手術済み20頭を除く全頭が対象）

【手術実施数】 138頭

内訳：オス79頭(陰睾4頭）、メス59頭（うち妊娠10頭）

【未手術数】 3頭（衰弱が激しいことによる中止）

【死亡数】 3頭　動物病院で血液検査の結果からすでに何らかの疾患を煩っていたため術後多臓器不全に陥ったことが推察される

【その他処置】 卵巣嚢腫　乳腺腫瘍摘出　卵巣水腫　子宮蓄膿症

処置内容

不妊手術（オス・メス）、7種混合ワクチン、狂犬病ワクチン、補液、ノミ駆除、寄生虫駆除、負傷治療　など

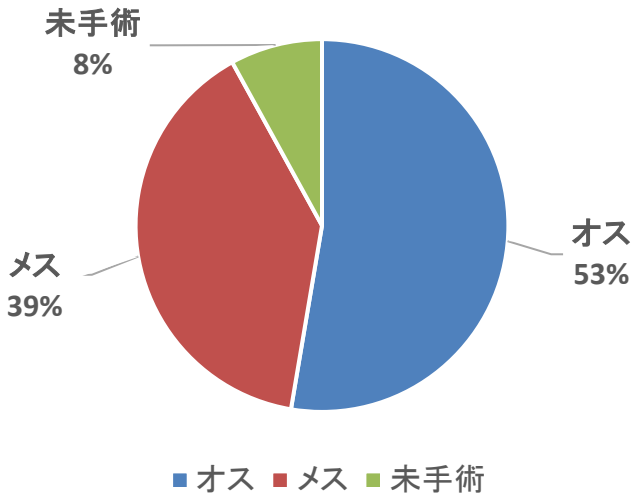
＊狂犬病ワクチンの費用は飼い主負担(1頭/1000円）

【診療以外】爪切り、耳掃除、ブラッシングなど

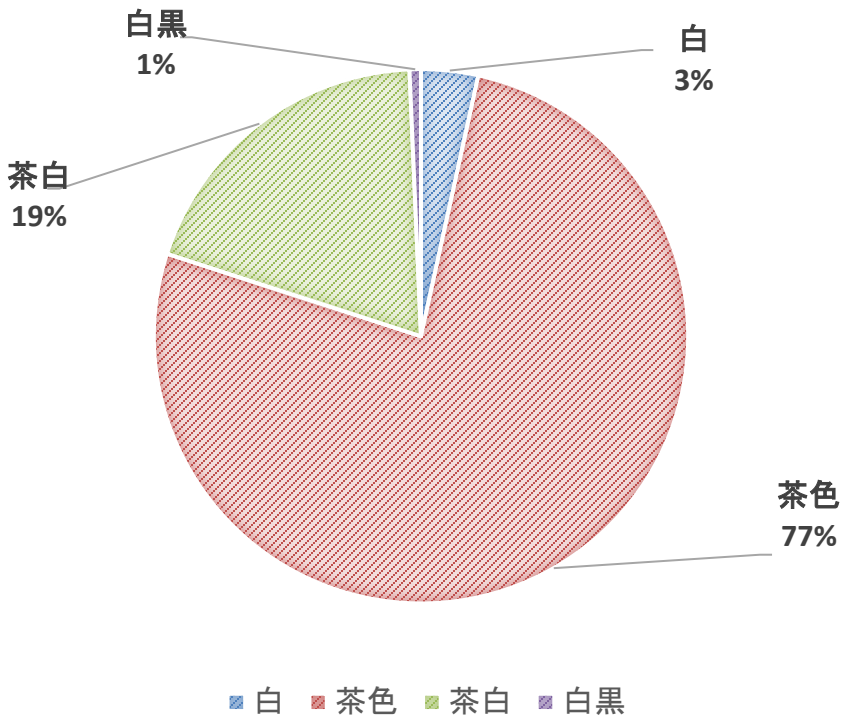
犬　性別と毛色

doubutukikin

出雲市多頭飼育崩壊　手術犬の性別



手術犬の毛色割合



獣 医 師

doubutukikin

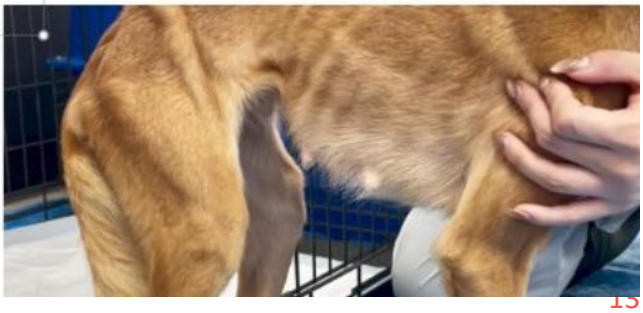
執刀医： 山口、大西、石渡

ボランティア参加　： 齊藤、藤田

犬の状態

doubutukikin

- 栄養失調のうえ、出産を繰り返し状態は非常に悪い
- 爪は伸び放題で狼瘡が食い込んでいる犬もいた。
- 怪我、皮膚病、遺伝的疾患、栄養失調



犬の状態

doubutukikin

犬の状態

doubutukikin

獣医の証言

doubutukikin

- 栄養状態がかなり悪い
- 感染症がかなり蔓延している
- 怪我をしている犬が多くいる
- 病気を放置している
- 爪が伸びすぎている

11月9日：藤田獣医に現場から証言していただきました。

「明らかにネグレクトと判断が出来ます」

近隣住民との解決策と経緯

doubutukikin

日付	
約30年程前	室内外合わせて30匹以上は飼っていた（近隣住民）
約20年前	近くの公園まで悪臭が広がり、学区の小学校で「あの公園で遊ぶと身体にダニがつくから行ってはダメ」と指導するほどだった（近隣住民）
2013年	室内から犬が逃げ出す騒動が起こっている。（近隣住民）
2020年 7/17	近隣住民が県に良好な住環境を守ることと多頭飼いされている犬たちへの不適切な飼養を止めさせることに関する陳情陳情書と約80名の署名と共に提出
7/29	保健所と警察が飼い主宅に立入検査
10/25 、26	住民代表が多頭飼育により迷惑を被っていることを飼い主に伝える
11/2	どうぶつ基金の支援が決定したことを受けて近隣住民が県に陳情書を提出
11/20	近隣住民、出雲保健所、地元4団体、との話し合いにどうぶつ基金理事長がリモート参加
12/1	出雲保健所から住民代表に「全ての犬の行先が確定した」との連絡

近隣住民からの陳情と約80人の署名にようやく重い腰を上げた保健所と警察による立ち入り調査が行われましたが、立ち入り調査後、出雲保健所の行政獣医師は「飼育状態から虐待とはみなされず、 又、緊急的な措置が必要な状況でもない」と近隣住民に回答しています。

（2020年11月2日　近隣住民より島根県に提出された要望書より抜粋）

30年間、虐待行為が続いており、そのせいで犬ばかりでなく、近隣住民も鳴き声や糞尿臭に悩まされ、多大な被害を被ってきました。この現場から解放されたのは犬だけでなく近隣住民も同じです。

犬がいた8畳

doubutukikin

飼い主の庭とプレハブ

doubutukikin

改善された庭

doubutukikin

飼い主に戻される予定の犬たちのために準備をしていましたが、
県の方針転換で急遽犬たちは飼い主の元に戻らず、保護、譲渡されることになりました。

- ゴミの撤去：出雲市
- 庭の砂利の費用：どうぶつ基金
- 消毒作業：島根県
- プレハブ撤去費用：飼い主
- 掃除：ボランティア

寝室

doubutukikin

2階のこの部屋は1mを超える糞の山で7匹の犬がいました。
ノミがわき、不衛生極まりなく、福祉の介入が必要と判断し、島根県職員に情報提供をしました。

メディア

doubutukikin

一般家庭で160頭を超える犬の多頭飼育崩壊が発生－。
救済支援の決定とともに、驚きをもって多くのメディアに取り上げられました。

その衝撃は国内メディアにとどまらず、ロイター通信によって全世界にも配信。
日本における動物虐待の認識の甘さや、多頭飼育崩壊への対策が急務であることなど、大きな問題が提起されました。

保護の流れに追い付けず

出雲市内の犬多頭飼育

ニュース追跡

島根県 動物行政見直し急務

譲渡活動にも積極関与を

プレスリリース転載件数：48件

国内メディア掲載先：
フジテレビ、NHK、ちゃんねるテレポート山陰、読売新聞、朝日新聞デジタル、Yahooニュース、ライブドアニュース　等

海外メディア掲載先：
ロイター通信、EFE通信　等

地元テレビ局の取材を受ける、どうぶつ基金理事長

支援物資

doubutukikin

全国の皆様より数多くの支援物資をお送りいただきました。

160頭以上の犬たちの命をつないたフード。あっという間に山積みになるほどのフードが届けられました。

フードボウル。これまで自分の食器で落ち着いてご飯を食べたことはなかったのではないでしょうか。

多くの子が首輪をつけていませんでした。初めてつける子でも首に負担のかからないものを、たくさんお届けいただきました。

130ものケージがあっという間に集まりました。これらのケージは、多くの子にとって、初めて与えられた自分だけのスペースでした。

ま と め

doubutukikin

今回は、不衛生な飼育環境によって犬たちが寄生虫に感染していたため、手術前に全161頭を手術会場である出雲保健所に移動し、寄生虫駆除のための投薬を開始しました。犬たちは初めてのことだらけで不安だったと思いますが、慣れない環境のなか、手術、治療、投薬など彼らも頑張ってくれました。

すでに手術済みであった20頭を除き、141頭に不妊手術を行う予定でしたが、3頭は衰弱が激しく獣医師の判断により手術中止となりました。しかしながら、手術可能な138頭には不妊手術を行うことができ、また、最終的に全頭が飼い主宅に戻されることなく譲渡先が決定したことに大きな喜びを感じています。

どうぶつ基金は、現場と犬の状況から明らかに虐待であると考え、再三にわたり島根県に通報しました。その結果、島根県はネグレクト＝虐待飼育であったと認めました。これは大きな一歩です。
悲惨な状況から動物を救い出すには、正しい現状認識が欠かせません。そうでなければ、いくら動物愛護法が改正されたところでザル法となってしまいます。
「飼い主に愛情があるかどうか」ではなく、動物が置かれた状況をもってのみ判断されるべきである、そして、どうぶつ基金は常に動物たちの代弁者でありたい、その思いをより一層強くした救済支援となりました。

doubutukikin

公益財団法人どうぶつ基金

NPO法人アニマルレスキュー ・ドリームロード

しあわせサポート犬猫部

島根動物愛護ネットワーク

浜田動物愛護会マーブル

出雲保健所はじめ行政職員の皆様

現地ボランティアの皆様